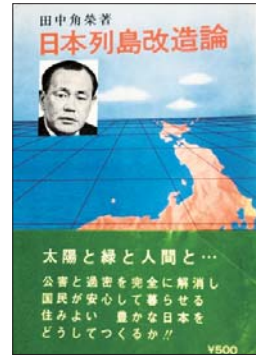


グリーン交悠録

秘書官ゴルフ

コミュニケーションの機会として
ラウンドすることに意味がある。



元アラビア石油会長・田中角栄総理大臣秘書官 小長 啓一 氏
本誌主幹 大中 吉一

田中元首相と ノーカウントで初ラウンド

大中 ゴルフは苦手と記憶してありますが。

小長 はい、決して好きな方ではないですね。でも昨今は健康のためもあって、歩く目的でラウンドしています。

大中 どのようなきっかけでゴルフを始めたのですか。

小長 そもそもは田中角栄元首相の秘書官になった時です。角栄氏は日本における一極集中を解消し、30万都市を30〜40個作りたい。そこから地域活性化を行うことが大切だとの考えから、優秀な官僚を集めるように指示されました。1日に6時間、それを10回ほどやりましたか。膨大な議事録から総裁選の2か月前に纏められたのが「日本列島改造論」です。

大中 安倍首相の標榜する地方創世論の草分けであり、これを45年前にやつていたわけですね。

小長 それを二人ではいけないと日刊工業新聞に持ち込み、日刊工業から15名、各省庁からも優秀な人

材を集め、6か月で一冊の本にしたのです。

大中 そうして田中角栄氏は総理大臣になったのですね。

小長 それまで内務省、外務省、大蔵省からだけであった総理秘書官に、初めて当時の通産省から任命されたのが私でした。

大中 その時初めて会われたのですか。

小長 いえ、田中角栄氏が通産大臣の時にお会いしていました。首相官邸で総理としてお会いするのは違いますからね。そこで総理から秘書官としての心得を叩き込まれました。

大中 なるほど。

小長 そうしたらある時、田中総理から「ゴルフはできないのか」と聞かれ、できませんとお答えすると、黙ってついてくるようにと言われました。

大中 練習場か何かに行かれたのでしょうか。

小長 いいえ、いきなりコースです。「秘書官ゴルフ」として首相の秘書官が首相を囲んでゴルフをするのですが、いきなり小金井カント

リー倶楽部に連れていかれました。大中 即コースですか。

小長 ええ、右や左に大騒ぎでした。総理からはボールの拾い方、探し方など懇切丁寧に教えていただきました。うっかり立っていると、「小長君、斜め前は危ない。必ず打者の後ろに立ちなさい。私だつてジャンクすることもあるのだから」と。

大中 スコアはいかがでした。

小長 田中角栄氏も打数のことは一切おっしゃいませんでした。ですから全く覚えていない、というか意識していなかったですね。

大中 なるほどノーカウントで初ラウンドですね。

小長 それから月に1度くらいのペースで連れて行っていただいて、どうやら格好がついたというところですね。

大中 今ほどのくらいのスコアでラウンドされるのですか。

小長 概ね110辺りです。かつて110にちなんで百獣の王から名前を取った「ライオンズ・クラブ」というのがありました。よそのコンペでは優勝できない110組が集まってやるのですが、 HALF に1

ホールずつボーナスホールをつくり
ます。ホールアウトした後にあみだ
籤で決めるのですが、そのホールで
いくら叩いてもバー扱いになるので
です。ですから、平等に優勝のチャン
スがあるのです。

大中 なかなか面白い仕組みです
ね。どんなメンバーがいらつしやった
のですか。

小長 当時の会長が住友化学の土
方武、関西電力の小林庄一郎、三
菱重工業の守屋栄治、それに元通
産事務次官の児玉幸治など総勢25
人、錚々たるメンバーでした。

大中 これまでホールインワンや
イーグルのご経験はおありですか。

小長 それが一度もありません。ご
一緒させていただいた方は拝見し
たことはありませんが、私はさつぱり
縁がありませんね。

大平会は現役とOBの 交流の場

大中 ゴルフというのは世知辛くス
コアを追求するばかりでなく、そこ
での交流が大切ですからね。

小長 そうですね。一日ご一緒しま
すからその方の普段は見えない面

も拝見できますし、さまざまなお
考えも聞くことができますね。

大中 大平会というのがありまし
たね。

小長 通産省(現・経済産業省)
の現役官僚とOBの交流の場とし
た。必ず総務課長が幹事役で箱根
の仙石ゴルフコースで年に2回開催
されました。

大中 発足は75年前ですね。2年
ほど、倫理規定で休会しましたが、
いまは再開されています。

小長 現役とOBが忌憚なく情報
交換ができる良い集まりです。日本
の通産行政の未来を語りながらラ
ウンドしています。

大中 今も参加されるのですか。
小長 かつては参加させていただ
いていましたが、いまはもう88歳、米
寿になりましたからね。

大中 88といえば、経産省にはも
う一つ「米」つまり88と書いて「みず
ほ会」というのがありますね。オー
ルスクラッチでレベルの高いコンペで
す。ハンデイが9〜20ぐらいの人た
ちが集まります。基準が88ですか
ら皆さんハーフを44ぐらいでラウン
ドするわけですね。

小長 児玉幸治氏、山本幸助氏
など多くの事務次官経験者も参加
していらつしやいましたね。

大中 極めてレベルの高いものでし
た。

車をやめて歩け歩け

小長 それでも、殺伐とスコアを追
求するのではなく、和気藹々という
雰囲気がありますからね。

大中 ゴルフは人と人の交流の場
ですからね。1日かけてラウンド
し、19番ホールでさまざまな交流
や情報交換をする。そこから交友
が広まっていくのです。

小長 おつしやる通りですね。そう
いう意味ではもつともつとラウンド
したいと思いますが、なかなか行け
ませんね。

大中 今年は年間何ラウンドくらい
ですか。

小長 年に2回ほどですかね。と
にかく歩くことが目的でコースに
出かけています。

大中 そういえば車をおやめになっ
たそうですね。

小長 運転手付きのハイヤーはも
う10年前にやめました。毎日自分

の足で歩くようにしています。あれ
を我々は霊柩車と呼んでいるので
すよ。

大中 霊柩車ですか。確かに歩く
ことは大切です。

小長 おかげでいまは1日に1万
5000歩は歩いていきます。大
中さんも、いろいろご病気をされた
ようです。そろそろ霊柩車をやめ
て歩かれたらいかがですか。ゴルフ
だけでなく散歩するだけでも健康
的ですよ。

大中 先輩にかえつて激励されて
しまいました。たしかにそうかもし
れませんね。でも私はもう少し、さ
まざまな交流の場、情報交換の場
としてのゴルフに向き合ってみたい
と思います。

小長 それもまた一興ですね。

大中 今日は楽しいお話をありが
とうございました。ぜひ近いうちに
コースを一緒に歩けたらと思います。

